

ツマベニチョウだより (第6号)

◎ 本年度中にギョボクの苗木304本を贈呈することが出来ました。

12月9日サンメッセ日南様にもらっていた20本を最後に、本年度の苗木の贈呈を終わりました。9月22日の「ツマベニチョウだより第5号」発行の時点での贈呈本数は211本でしたが、その後10月22日に南郷町役場に50本、11月28日にサンメッセ日南様に23本もらっていただきましたので、本年度の贈呈総数は304本となりました。

その内訳は次の通りです。

(挿し木によるもの) 上妻隆康様…58本、井崎和幸様…51本、中村政義様…59本
長渡達夫様…20本、海老原秀夫102本 (合計290本)

(2年生以上のもの) 室屋龍雄様…14本
合計総数304本

◎ 大島にギョボクとランタナの苗木を植えていただきました。

南郷町役場にお届けしたギョボクの苗木50本とランタナの苗木10本は、同町の職員の皆様が大島の適地に植えて下さいました。お忙しい公務の時間を割いて植栽していただきましたことを感謝申し上げます。(このことについては11月25日の宮崎日日新聞日南串間版に、写真入りで掲載されましたのでご覧になられた方もおありかと思います)。

◎ ツマベニチョウ飼育の先進地鹿児島県に行ってみました。

「育てツマベニチョウ 一平川動物園— 展示向け幼虫すくすく」と題した9月22日付けの南日本新聞の切り抜きを、岩崎郁雄様を送って下さいました。内容は…鹿児島市の平川動物園で、来年3月「リスの森」で放し飼いにされるツマベニチョウが順調に育っている。飼育用の網室の中ではあちこちで、幼虫が餌を食べたり、チョウが蜜を吸う姿が見られる。「リスの森」内には「チョウ育成室」も新設し、ツマベニチョウの繁殖も計画。育成室には幼虫繁殖用の鉢植えなどが置かれ、チョウは羽化次第「リスの森」に放される。(以下省略)…そこでその実際を見てみようとして12月4日に出掛けました。

動物園に着くと直ぐに来意を告げ、「リスの森」や「幼虫の飼育室」などを見学させていただくようお願いしましたところ、担当者の石堂昭憲様が親切に園内をご案内下さり、両方の中にも入れていただき、詳しく説明しながらいろいろなことを教えて下さいました。飼育室では大小の幼虫があちこちのギョボクに付いていましたが、蛹は一つもなく不審に思ってそのことをお尋ねしたところ、蛹化した時点で他の保管場所に移すとのこと。そして来年の春に「リスの森」に少しずつ移して羽化させるとのことでした。成る程蚕を飼う要領かと納得し、宮崎でも応用出来るのではと思いました。

◎ お力添えをいただきました各方面の方々にお礼を申し上げます。

初年度にもかかわらず皆様のお陰で予想以上の成果を収めることが出来ましたことを深謝致します。現在も植物園の温室で越冬中(或る協会のご厚意による)のギョボク10本があり、また私の家の庭には井上正光様からいただいた、直径5センチもあるギョボクが来年年用にすくすくと伸びています。見ず知らずの私に惜し気もなく挿し木用の枝を分けて下さったり、管理に手間のかかる厄介な挿し木を快く引き受けていただきました皆様のほか、何かとご支援を賜りました方々に対し深甚なる敬意と感謝の言葉を申し述べまして、お礼に代えさせていただきます。まことに有り難うございました。

平成10年12月10日

海老原秀夫

